

GIGAスクール教科等研究集会 【中学校国語部会】

「ICT」・「学習指導要領」について

1

PISA2022

文部科学省・国立教育政策研究所
令和5年12月5日

OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント

前回調査で課題が見られた問題の今回調査での状況

- 前回2018年調査では、ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文から必要な情報を採り出したり、それぞれの意図を考えながら、主張や情報の質と信ぴょう性を評価した上で、自分がどう対処するかを説明したりする大問において、特に問4・問6の正答率がOECD平均より低い状況が見られた。
- 今回調査では、この大問の正答率が全体的に微増する傾向が見られた。※今回は正答率のOECD平均は公表されていない。

◆課題文1：企業のWebサイト

(商品の安全性を宣伝)

問1：字句や内容を理解する

69.9%→75.2%【2理解する】

問2：記載内容の質と信ぴょう性を評価する(自由記述)

60.2%→65.7%【3評価し、熟考する】

◆課題文2：オンライン雑誌記事

(商品の安全性について別の見解)

問3：課題文の内容形式を考える

81.5%→83.1%【3評価し、熟考する】

問4：必要な情報がどのWebサイトに記載されているか推測し出す

56.1%→56.8%【4情報を採り出す】

◆課題文1と2を比較対照

問5：両文章の異同を確認する

53.1%→59.9%【3評価し、熟考する】

問6：情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する(自由記述)

8.9%→14.3%【3評価し、熟考する】

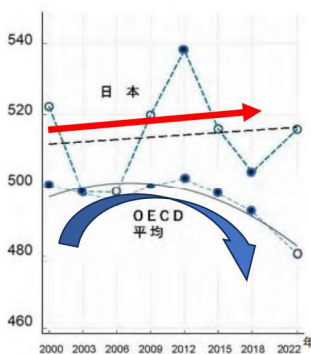
※青字は日本の正答率(左：2018年調査、右：2022年調査)

2

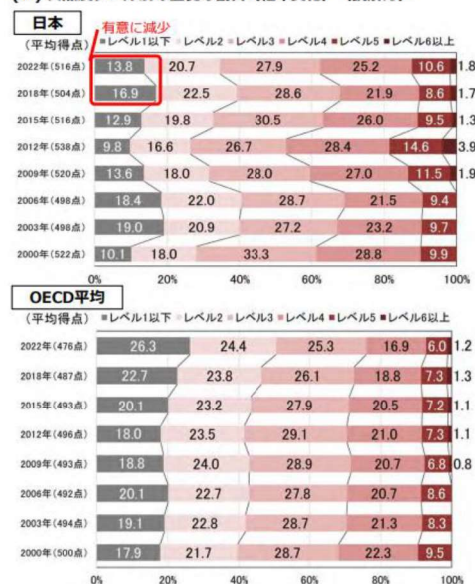
- 読解力の平均得点(516点)は、OECD加盟国中2位(順位の範囲：1-6位)。前回2018年調査(504点)から有意に上昇し、前々回2015年調査(516点)と同水準。
- OECD平均は平均得点の長期トレンドが下降しているが、日本は平坦型(平均得点のトレンドに統計的に有意な変化がない)。
- 日本は習熟度レベル1以下の低得点層の割合が前回調査に比べて有意に減少している。

(i) 読解力の平均得点の推移

(注) 白丸はPISA2022年の平均得点を統計的に有意に上回ったり下回ったりしない平均得点を示す。



(ii) 習熟度レベル別の生徒の割合(経年変化)(読解力)



3

1. 2018年調査の結果

● OECD加盟国(37か国)における比較

□ は日本の平均得点と統計的に有意な差がない国

	読解力	平均得点	数学的リテラシー	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	エストニア	523	日本	527	エストニア	530
2	カナダ	520	韓国	526	日本	529
3	フィンランド	520	エストニア	523	フィンランド	522
4	アイルランド	518	オランダ	519	韓国	519
5	韓国	514	ポーランド	516	カナダ	518
6	ポーランド	512	スイス	515	ポーランド	511
7	スウェーデン	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
8	ニュージーランド	506	デンマーク	509	スロベニア	507
9	アメリカ	505	スロベニア	509	イギリス	505
10	イギリス	504	ベルギー	508	オランダ	503
11	日本	504	フィンランド	507	ドイツ	503
12	オーストラリア	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
13	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
14	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
15	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
16	スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
17	ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
18	フランス	493	オーストリア	499	スイス	495
19	ポルトガル	492	ラトビア	496	フランス	493
20	チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
	OECD平均	487	OECD平均	489	OECD平均	489
	信頼区間※(日本)	499-509	信頼区間(日本)	522-532	信頼区間(日本)	524-534

4

PISA2022 (得点の国際比較)

OECD加盟国
(37か国)

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド*	516	日本	547
2	韓国	528	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ*	515
5	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
6	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
7	アイルランド*	492	ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイルランド*	504
9	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
10	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485

全参加国・地域
(81か国・地域)

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	シンガポール	575	シンガポール	543	シンガポール	561
2	マカオ	552	アイルランド*	516	日本	547
3	台湾	540	日本	516	マカオ	543
4	香港*	540	韓国	515	台湾	537
5	日本	536	台湾	515	韓国	528
6	韓国	527	エストニア	511	エストニア	526
7	エストニア	510	マカオ	510	香港*	520
8	スイス	508	カナダ*	507	カナダ*	515
9	カナダ*	497	アメリカ*	504	フィンランド	511
10	オランダ*	493	ニュージーランド*	501	オーストラリア*	507

【出典】 OECD主催の学習到達度調査(PISA2022)のプリント(国立教育政策研究所)から作成

国名の後に「」が付されている国・地域は、PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

全分野で世界トップ級 ICT×学習への慣れも背景

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

(R3.1中央教育審議会答申)

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」
- 社会全体のデジタル化・オンライン化、DX加速の必要性

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あつちの他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは？

子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

【成果】

国際的にトップクラスの学力
学力の地域差の縮小
規範意識・道徳心の高さ

【今日の学校教育が直面している課題】

子供たちの多様化
生徒の学習意欲の低下
少子化・人口減少の影響
教師の長時間労働
感染症への対応

【新しい動き】

新学習指導要領の着実な実施
学校における働き方改革
GIGAスクール構想

「正解主義」や「同調圧力」への偏りからの脱却

一人一人の子供を主眼とする学校教育の実現

「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる！
新しい時代の学校教育の実現

まだまだ、デジタルを学びに使わず、遊びに使う傾向 ICTを学びの道具にし、賢い付き合い方を教える指導が必要

青少年のインターネットの利用状況

▼インターネットの利用時間の1日あたりの平均

小学生 約3時間34分
中学生 約4時間37分
高校生 約5時間45分

○インターネットを利用すると回答した青少年の平均利用時間は、前年と比べ17分増加し、約4時間41分。

○目的ごとの平均利用時間は**趣味・娯楽**が最も多く、約2時間49分。

2022年度※2
(2010年度)

小学生

64.0%

(0.0%)

中学生

91.0%

(1.3%)

高校生

98.9%

(3.8%)

子供専用のスマホ保有率

小学生

64.0%

(0.0%)

中学生

91.0%

(1.3%)

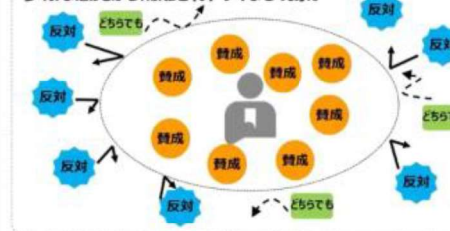
高校生

98.9%

(3.8%)

フィルターバブル現象

自分の好み情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。



エコーチェンバー現象

同じような意見が、閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていく現象



【出典】 内閣府 令和4年度 青少年のインターネット利用状況調査 調査結果(概要)

※1 ※2 ※3 ※4 ※5 ※6 ※7 ※8 ※9 ※10 ※11 ※12 ※13 ※14 ※15 ※16 ※17 ※18 ※19 ※20 ※21 ※22 ※23 ※24 ※25 ※26 ※27 ※28 ※29 ※30 ※31 ※32 ※33 ※34 ※35 ※36 ※37 ※38 ※39 ※40 ※41 ※42 ※43 ※44 ※45 ※46 ※47 ※48 ※49 ※50 ※51 ※52 ※53 ※54 ※55 ※56 ※57 ※58 ※59 ※60 ※61 ※62 ※63 ※64 ※65 ※66 ※67 ※68 ※69 ※70 ※71 ※72 ※73 ※74 ※75 ※76 ※77 ※78 ※79 ※80 ※81 ※82 ※83 ※84 ※85 ※86 ※87 ※88 ※89 ※90 ※91 ※92 ※93 ※94 ※95 ※96 ※97 ※98 ※99 ※100

学校におけるICTを活用した学習場面

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1 教員による教材の提示

画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B3 思考を深める学習

シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1 個に応じる学習

一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B4 表現・制作

マルチメディアを用いた資料、作品の制作

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通して、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1 発表や話し合い

グループや学級全体での発表・話し合い

C3 協働制作

グループでの分担、協働による作品の制作

C2 協働での意見整理

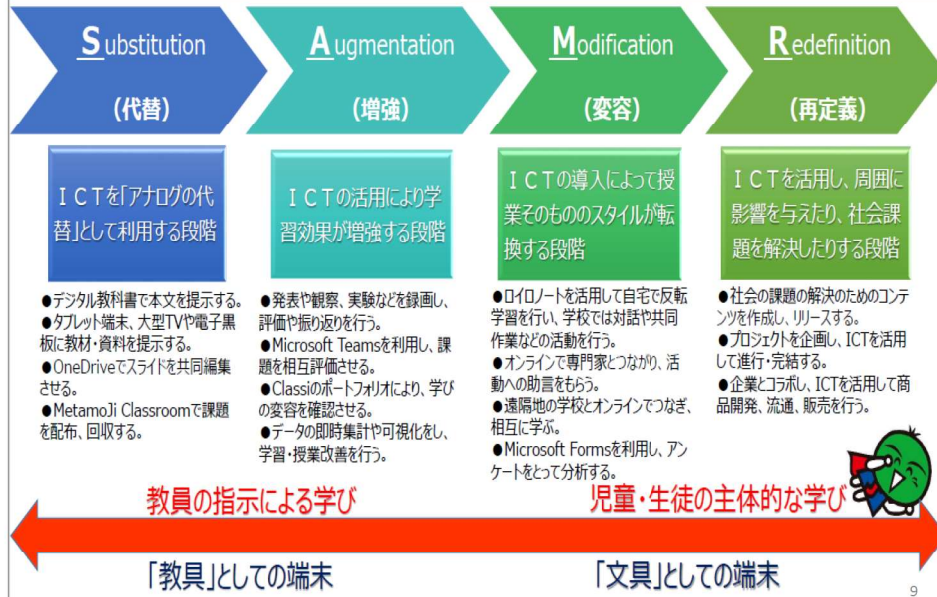
複数の意見・考えを議論して整理

C4 学校の壁を越えた学習

遠隔地や海外の学校等との交流授業

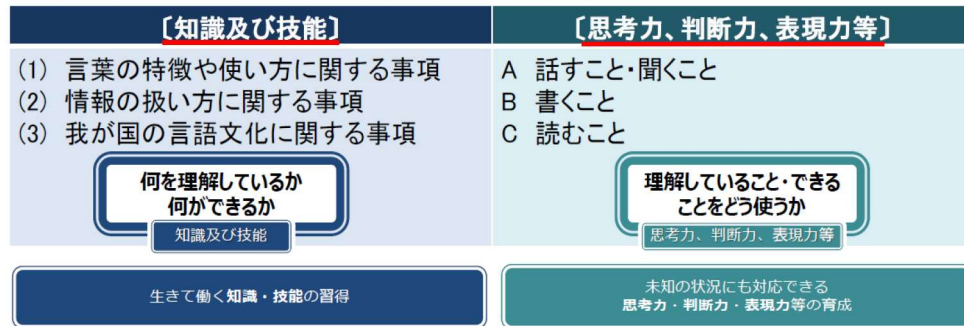
※「学びのイノベーション事業」実践研究報告書(平成26年度)より

徳島ICT活用モデル イメージ図



内容の構成の改善

〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕の構成



・考えの表出(思考・判断・表現)
・自らの学習状況の課題を把握
・課題の改善

〔思考力、判断力、表現力等〕を身に付けるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぼうとする態度(主体的に学習に取り組む態度)

目標の構成の改善

中学校学習指導要領 第2章 第1節 国語

第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、**言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

言語活動を通して、**三つの柱**で整理された**資質・能力を育成**することを明確に示している。

中央教育審議会答申においては、**ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため**、平成20年告示の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、**〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。**

「解説」p.9

学習の系統性の重視

学習過程	第1学年	第2学年	第3学年
考えの形成、共有	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

自分の考えを確かなものにするためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることが重要である。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにする事が考えられる。(「解説」p.71)

関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的に明確なものにしていくことが重要である。(中略)他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりすることが、物事に対する新たな視点をもつことにつながり、自分の考えを広げたり深めたりすることになる。(「解説」p.100)

人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつとは、様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考えから、人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えをもつことである。「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことや評価したことなどを結び付けて自分の考えを明確にもち、文章に表れているものの見方や考えと比べたり、他者の考えと比べたりすることによって、自分の考えを広げたり深めたりすることが求められる。(「解説」p.129)

今回の改訂では、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図った。

当該学年で重点を置くべき指導内容について指導と評価を適切に行っているか。

参考

令和6年度教育課程実践検証協力校における実践（令和6年5月）

単元名 アイスプラネット

最も共感できる登場人物を紹介しよう～登場人物の設定の仕方を捉えて読む～

（第2学年）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①類義語と対義語について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（11エ）	①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えている。（C11ア）	①粘り強く登場人物の設定の仕方を捉え、学習課題に沿って最も共感できる登場人物を紹介しようとしている。

学習課題

「ぐうちゃん」「父」「母」のうち、最も共感できる人物はだれか。あなたの共感が他の読者（クラスメイト）にも伝わるように紹介しよう。

この学習課題を解決するためにはどのようなことが必要だろうか。

- 言動に着目して人物の性格を考える。
- 着目する表現が誰の視点で語られているのかを考える。
- 人物像を表す言葉を考える。
- 類義語辞典や国語辞典で言葉の意味を調べてふさわしい言葉を選ぶ。
- 対照的な人物と比較して紹介する。

など

13

「考えの形成」の重視

学習過程	第1学年	第2学年	第3学年
考えの形成、共有	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめるものにする。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

○考えの形成、共有

文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することを示している。「考えの形成」とは、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既
有の知識や様々な経験と結び付けて考えをまとめたり広げたり深めたりしていくことである。

（中略）中学校においては、小学校において身に付けた力を生かし、自分の考えを他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにしたり、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えたりすることが重要である。

（「解説」p.37、38）

・「C読むこと」の学習では、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程での学習の状況が、「考えの形成、共有」の学習に影響する。

・各学年で重点を置くべき指導内容に応じて、次のようなことができる学習課題や学習場面の設定が重要となる。

- ◆文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既
有の知識や様々な経験と結び付けて考えをまとめたり広げたり深めたりすること。
- ◆自分の考えを他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにしたり、一人一人の捉え
方の違いやその理由などについて考えたりすること。

15

「考えの形成」の重視

中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっている。

全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた。

	学習過程	指導事項		
		第1学年	第2学年	第3学年
A 話すこと・聞くこと	話すこと	イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。	イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。	イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。
	聞くこと	エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。	エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。
	話し合うこと	オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。	オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。	オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。
B 書くこと	考えの形成、記述	ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わりやすくなるように工夫すること。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすくなるように工夫すること。
C 読むこと	考えの形成、共有	「考えの形成」に関する指導事項の指導は適切に行われているか。		
		考えを広げたり深めたりすること。		分の意見をもつこと。

14

単元名の設定

依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が求められる。「解説」p.6

教材への依存度の高さを改善するための視点として、単元名の工夫が考えられる。

◆令和元年度小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会（中学校国語）配布資料

第3学年B組国語科学習指導案	
1. 単元名・教材名	授業者
比較して読もう、「月の起源」～文章の構成や展開、表現の仕方を評価する～	これからどんな力を付けるために、どのような学習を行うのか分かる単元名か。

◆令和元年度各教科等教育課程研究協議会（中学校国語）配布資料

単元名	内容のまとめ
新たに知った言葉を紹介する ～聞き手を意識して話す～ 第1 A話すこと・聞くこと	第1学年 〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」

「単元名」は、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのかが生徒に分かるように工夫している。「単元名」の付け方は、4事例を通して複数のパターンを示す予定。

16

単元名の設定

事例1 「観光パンフレットを批評しよう～読解力のある文章を書く～」(第3学年)
単元の指導計画と評価の要素

第3学年「書くこと」の指導事項イ・エを、「批評する文章を書く」言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。
本事例では、中学校国語科における指導と評価の基本的な考え方について概説する。

事例2 「時事問題を語ろう～経験や知識を整理して話し意見交換する～」(第3学年)
「話す・聞く能力」の音声表現による評価

第3学年「話すこと・聞くこと」の指導事項ア・ウを、「スピーチし意見交換する」言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。
本事例では、音声言語によって評価する方法の一例を示す。

事例3 「『少年の日の思い出』を朗読しよう～自分のものの見方や考え方を広げる～」(第1学年)
言語活動を通じた指導と評価

第1学年「読むこと」の指導事項イ・オを、「朗読する」言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。
本事例では、言語活動を通して指導した指導事項について評価する際の留意点を説明する。

事例4 「『徒然草』を読んで暮らしについて考える～文章の内部について自分の考えをもつ～」(第2学年)
領域と関連させた「伝統的な言語文化に関する事項」の指導と評価

第2学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中の「伝統的な言語文化に関する事項」を、「読むこと」の領域と関連付けて指導した実践における評価事例を紹介する。
本事例では、古典を教材とした指導において、「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」を評価する方法の一例を示す。

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
(中学校 国語)』(平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程
研究センター)p.46

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで
「新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～」(第1学年)

第1学年「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」(1)ア・ウを、言葉を紹介する言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。
本事例では、中学校国語科における指導と評価の基本的な考え方について概説する。

事例2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価「ITの活用」
「投書を書く～多様な読み手を意識して文章全体を整える～」(第3学年)

第3学年「思考力、判断力、表現力等」の「B書くこと」(1)エを、ICTを活用して投書を書く言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。
本事例では、主として「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一例を示す。

事例3 キーワード グループ活動における個別の評価 テストの工夫
「『走れメロス』を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう」(第2学年)

第2学年「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」(1)ア・イを、考えたことを語り合う言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。
本事例では、主として「グループ活動における個別の評価方法の一例を示す。

事例4 キーワード 「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価の明確化、学習の振り返りの活用
「漢字の読みと自分のものの見方や考え方を比べる」(第2学年)

第2学年「知識及び技能」(3)の「伝統的な言語文化に関する事項」(「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」(1)オを関連付けて指導した授業における評価事例を紹介する。
本事例では、古典を教材とした指導において、主として「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する方法の一例を示す。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校国語
(令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所)p.41

17

学習課題の提示

学習課題の提示の仕方を工夫しないと、教師の意図が生徒と共有されず、育成を目指す資質・能力を発揮させることができない場合がある。

「少年の日の思い出」

(例)

- ①文章を、いくつかの場面に分けてあらすじをまとめましょう。
- ②エーミールの人柄が分かる表現に線を引こう。
- ③クジャクヤママユのうわさを聞いてからの「僕」の心情の変化をまとめよう。
- ④最後に「ぼく」がちょうを「一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった」わけを考えよう。
- ⑤エーミールの視点から文章の一場面を書き換えよう。

- ・なぜ、エーミールの人柄が分かる表現に線を引くのだろうか。
- ・なぜ、その場面の「僕」の心情の変化をまとめるのだろうか。
- ・なぜ、最後の表現だけ、深く考えるのだろうか。
- ・なぜ、エーミールの視点から書き換えるのだろうか。
- 今までの学習と、どのようなつながりがあるのだろうか。

18

学習課題の提示

このように、知識の理解の質を高めることが今回の改訂においては重視されており、各教科等の指導に当たっては、学習に必要な個別の知識については、教師が生徒の学びへの興味を高めつつしっかりと教授するとともに、深い理解を伴う知識の習得につなげていくため、**生徒がもつ知識を活用して思考することにより、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、知識を他の学習や生活の場面で活用できるようにしたりするための学習が必要**となる。

(中略)

生徒が「理解していることやできることをどう使うか」に関わる**「思考力、判断力、表現力等」**は、社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、**その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力**であり、変化が激しく予測困難な時代に向けてますますその重要性は高まっている。

(「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編」p.37、38)

「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」としての資質・能力を身に付けさせるために、例えば、学習課題を提示する際に、その学習課題と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのか(理解していること・できることをどう使うか)を考えたりするような場面を設定することが考えられる。

19

学習課題の提示

「少年の日の思い出」

時	主たる学習活動
1	○『僕』は最後の場面の後、どのように変化していくのだろう」という問いに対して、見通しを持つ。 ○問いの解決のために、どのような視点で読んでいくか共有する。
2	○共有した視点から、自分なりに文章を精査・解釈していきながら、問いについて自分なりの考えを持つ。
3	
4	
5	○考えたことを交流しながら、更に自分の考えを深め、『僕』はその後、どうなったのかについて、書く。
6	

◆学習課題を「問い」という形で提示し、その解決のために必要な学習の進め方を考える場面を設定している。
◆これまでに「読むこと」の学習で身に付けた資質・能力などを発揮できるように見通しを立てさせている。

(指導上の留意点)
単元の問いについて、「人物像」や「心情の変化」等、既習の読みの視点を共有することで、単元の問いについて自分なりに解決の見通しを持てるようにする。

20

学習課題の提示

「走れメロス」

- 2 ○ 場面の展開に即して、メロス、セリモンティウス、ディオニスの三人の人物像について学習する。

◆学習の見通しを立てさせる場面は、単元の冒頭以外にも考えられる。
◆[知識及び技能]の事項を自覚的に活用できるように働きかけることも考えられる。

- 次の時間の学習の見通しを持つ。

・「推しの登場人物」のことを相手に説得力をもって伝えるには、文章の表現を根拠にすることはもちろん、自らの体験や知識と照らし合わせることも大切だということを確認する。

・スライドはキーワードを中心にしたものとさせ、「見やすい」ことを意識するよう伝える。

- 4 ○ 「推しの登場人物」についての紹介をスライドにまとめる。

「スライドを作成するときには、どのような点に気を付けるとよいだろうか。」と投げかけ、[知識及び技能](1)イ「話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。」との関連を図ることも考えられる。

21

現行の学習指導要領については、前章2.において述べたように、言語活動の導入に伴う思考力等の育成に一定の成果は得られつつあるものの、**全体としてはなお、各教科等において「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられており、そのことが、教科等の縦割りを越えた指導改善の工夫や、指導の目的を「何を知っているか」にとどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させることを妨げているのではないかと指摘もあるところである。**

学習指導要領等の改訂を契機に、子供たちが「何ができるようになるか」を重視するという視点が共有され、教科書や教材が改善され、学校や教職員の創意工夫に基づいた多様で質の高い指導の充実が図られることが求められる。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

(平成28年12月21日 中央教育審議会)

23

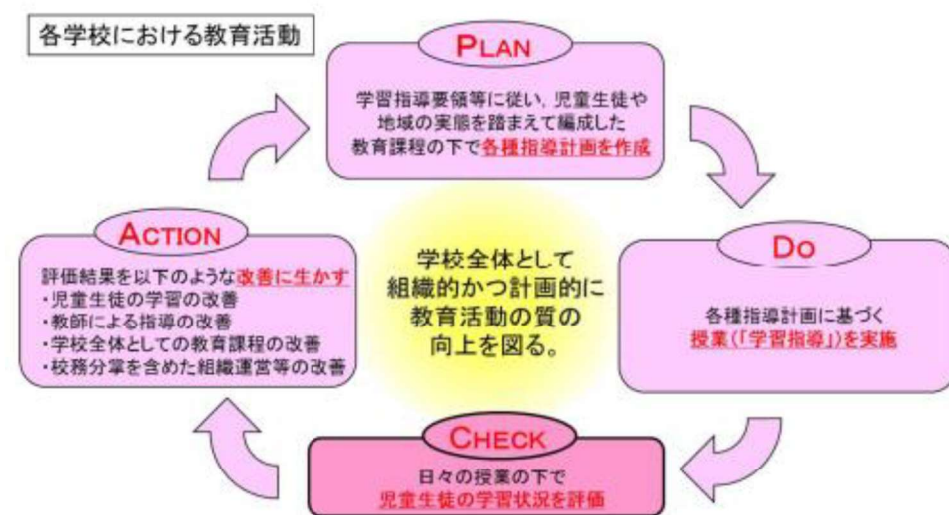
「故郷」 魯迅

主たる学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○「故郷」を通読して話の展開や内容の大体をつかむ。 ○登場人物について、人物相関図を作成する。	・「自分の意見をもつ」力を育成するために、今回は「人間」を主題に考えるという学習のねらいを共有する。 ・「故郷」の舞台背景や魯迅について、概略をおさえる。時代も国も違うが、比較することで人間の本質を捉えられる。個人で「人間は○○である」という意見文を作成して、意見交流会を行うというゴールを示す。 ・あらかじめ主な登場人物は示しておく。人物の行動描写や心情描写等に線を引いたり、受ける印象をメモしたりするなど、教科書に書き込みをしながら読むようにさせる。 ・学習班(3～4人)で人物相関図を作成させる。一人1台端末を使用し、スライド資料を共同編集しながら作成させる。スライドの大枠や付箋、矢印等は教師が準備しておく。	「評価の観点○」(評価方法) ・Bと判断する状況の例 ◎「現代社会と比べて、変わったもの・変わらなものはあるか。」
構造と内容の把握	○「人間とは○○である」の意見文を書くため、根拠とする「故郷」の登場人物を検討する。 ○自分の意見の参考や根拠とする本や資料を探し、読む。 ○一人1台端末のワープロ機能を使用して、意見文を作成する。	
精査・解釈 考えの形成・共有	・意見文を書く際、前時までに作成した人物相関図などを参考にさせる。 ・自分の選んだ登場人物の生き方や自分の意見と比較・検討するために他の本、新聞、雑誌、WEB資料を探して、読書させる。また、他者との意見交流の中で考えを広げることよいとする。 ・意見文作成中にも、他者と共有の時間を設ける。他者の意見や資料選択を自分の意見文と比較・検討させ、相違点や共通点、その理由などをについて考えさせる。 ・一人1台端末で作成、フォーマットは作成しておく。 ・意見文とは別枠に「読書をして得た情報や考えたことを記入する欄」と「読書の意義や効用について記入する欄」を設けておく。	○[知識・技能]①(意見文の別枠欄) ・読書の意義と効用について理解しているかを確認する。
○意見文を交流する。評価の視点を基に相互評価する。	・2人ペアで交流させる。一人1台端末を使い、意見文を表示し考えたことを伝えさせる。評価の視点を示し、生徒同士で相互評価をさせる。	○[思考・判断・表現]①(意見文) ・人間について考え、登場人物の生き方や読書で

22

22

学習評価の基本的な考え方



平成29・30年改訂の学習指導要領下における学習評価に関するQ&A より

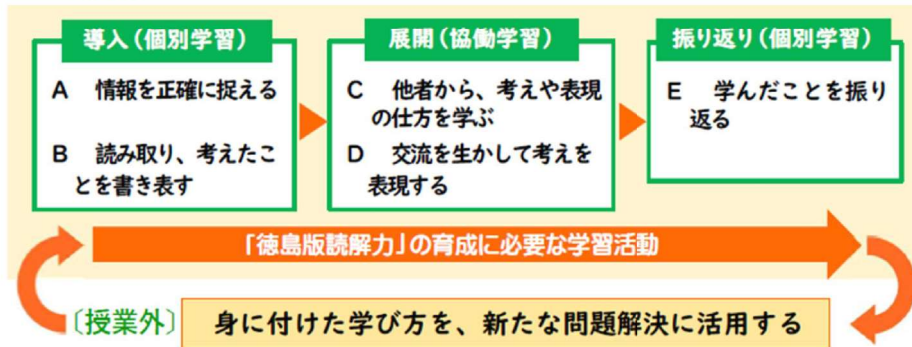
24

「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面〔A～E〕に
おいて「5つの力」を育成！

〔授業〕

- ★ 全ての教科等での取組
- ★ 学習方法・ツールの工夫
- ★ 授業、授業外での繰り返し



子供たちが主体的に学ぶ授業へ！